

エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループの経過報告・今後の予定

1 経過報告

(1) H28 年度エゾシカ・陸上生態系 WG の開催経過

●第 1 回会議

平成 28 年 6 月 28 日（木） 釧路

主な議題

- ・ H27 シカ年度エゾシカ保護管理計画実行計画実施結果について
- ・ H28 シカ年度エゾシカ保護管理計画実行計画案について
- ・ 第 3 期管理計画素案について

●第 2 回会議

平成 28 年 10 月 7 日（金） 釧路

主な議題

- ・ 第 3 期知床半島エゾシカ管理計画（素案）について
- ・ H28 シカ年度植生モニタリング事業結果速報
- ・ H28 シカ年度冬期事業実行案について
- ・ 平成 27 年度長期モニタリング事業評価

●知床遺産地域におけるエゾシカ採食圧に関する植生指標検討部会

平成 28 年 12 月 9 日（金） 札幌

- ・ 基本的な考え方とこれまでの経緯
- ・ 今年度までの植生モニタリング調査結果
- ・ 第 3 期知床半島エゾシカ管理計画への記載案
- ・ 今後のモニタリングスケジュールについて

●第 3 回会議

平成 29 年 1 月 12 日（木） 釧路

主な議題

- ・ 第 3 期知床半島エゾシカ管理計画（案）について
- ・ 平成 27 年度長期モニタリング事業評価について

(2) 第 3 期知床半島エゾシカ管理計画（2017 年～2022 年）のポイント（別添 1）

- ・ 北海道が定める第二種特定鳥獣管理計画「北海道エゾシカ管理計画」の地域計画であることから、名称を「保護管理計画」から「管理計画」へ変更。また、「知床世界遺産地域管理計画」等と連携を図ることを明記。
- ・ 特に個体数調整を行っている地区において、植生の回復状況を追記。
- ・ 遺産地域で個体数調整を実施する地区については管理目標として、航空カウント調査におけるエゾシカ発見密度の数値目標を記載。（知床岬地区：5～10 頭/km²以下、幌別一岩尾別地区：5 頭/km²以下、ルサー相泊地区：5 頭/km²以下）
なお、植生に関する数値目標については、植生に関するモニタリング結果や評価結果等を踏まえ検討を進めることとした。
- ・ 管理の主な評価項目として「植生」と「エゾシカ生息密度」を挙げ、それぞれ評価に関する考え方を記載。特に植生については、回復過程を表す指標種を設定し、簡易的な手

法による指標調査を中心にモニタリングを実施し評価を行うこととした。

(3) H28 シカ年度個体数調整事業計画について（別添2）

A. 遺産地域内（環境省 釧路自然環境事務所）

- ・引き続き、今シカ年度においても知床岬地区、ルサー相泊地区、幌別一岩尾別地区で個体調整事業を行う。
- ・知床岬地区では、流水期（ヘリ）、残雪期・無雪期（船）の捕獲を実施する。
- ・ルサー相泊では、ルサにおいて囲いわな（7年目）及びくくりわな（新規）による捕獲を実施する。流し猟式シャープシューティング及び相泊囲いわなは、災害による道路通行止めのため今シカ年度は実施せず、代替策として船舶を使用した相泊以北の捕獲の実施を試験的に実施する。
- ・幌別一岩尾別地区では、幌別の囲いわな（4年目）、岩尾別地区仕切柵による囲いわな式捕獲（4年目）及び岩尾別川河口での流し猟式シャープシューティング（4年目）に加えて、箱わなによる捕獲（新規）を実施する。

B. 遺産隣接地域（林野庁 北海道森林管理局）

- ・囲いワナによる捕獲を基本とし、シカ低密度化を図る。また民間と協働した囲いワナ捕獲（三段滝）も引き続き実施する。
- ・可猟区においては、林道等を除雪して一般狩猟を支援のほか、モバイルカリング等の銃による捕獲を行う。
- ・囲いワナにはできる限り自動捕獲装置を設置し、効率的な捕獲を行う。
- ・誘引期間を十分に設け（1～2週間）、警戒心の強いシカを囲いワナに慣れさせる。

(4) H28 シカ年度エゾシカ航空カウント調査

個体数調整を実施している3地区及びルシャ地区についてエゾシカ増減傾向を把握するための調査を遺産地域内において実施。

航空カウント調査における発見率が不明である点が管理上の障害となっていることから、幌別一岩尾別地区の一部において区画法（追い出しカウント）を実施し、航空カウント結果の補正のための発見率を求める。

2 今後の予定

(1) 管理計画の改定

今回科学委での議論を踏まえ確定し、平成29年4月から運用を開始する。

(2) 管理計画の進め方

年に2回程度開催する「エゾシカ・ヒグマWG」（仮称）において、科学的な評価及び助言を得ながら取組を進める。